

わたしのひととき

町の発展は 商工業の振興から

〈初神地区〉

菊 村 義 範

熊野町に来てから三十七年。熊野の住民になりきり、熊野町の色に染まったように思う。

その間、商工業の団体に勤務してきたが、「熊野と云えば筆、筆と云えば熊野」と云われている筆産業中心の町であり、他の業種は影が薄い状態であったようにも思う。

しかし、近年の筆産業も以前のような成長は期待できないような状態になってきている。

これは全国的に毛筆の使用の減少、パソコンの普及による若者の毛筆離れ、学校教育の改革等によるもの

と言われている。

さらに大きな原因としては、筆職人の減少と高齢化である。これについては、筆産業に携わる者、全般の責任である。後継者を育てる義務があるといわれている老舗業者、そして町が、その義務を果たしていなかったためであると思う。

今後の熊野町は、商工業全体の発展振興を図らなければならぬ。

商工業の発展こそ、町民が豊かになり、高齢者福祉の増進にもなり、また若い人の町への定住、熊野町の発展にも繋がるものと思う。

以前、町職員の方と視察に行った「工業の町」長野県坂城町では、町の担当者は常に工場に向き、事業主の意見や要望を聴いて行政に反映していた。町に整備資金の借入金に対する利子

補助制度があり、施設投資がスムーズに行われ、町と事業主が連携して町の発展のために努力しておられた。

当町にも熊野町預託融資制度があり、他町に例を見ないものと思うが、利用方法を今一度検討する必要があるように思う。これについては町の指導を期待したいところであるが…。

いま、熊野町には筆産業に続く商工業の創出が必要と思う。そして町、議会、町民が一体となって、若者や高齢者、障害者の福祉向上の町にしたいと節に願っている。



海の外のもう一つの ファミリィ

〈出来庭地区〉

結 城 奈 津 子

短大二年の冬休み、私はイギリス・ロンドンで約二ヶ月間の語学留学を経験した。単位が取得できる短大の海外研修プログラムではなく敢えて個人留学を選んだのは、その方が自主的に行動でき英語力がより身に付くと考えたからである。

住まいはロンドン郊外のとあるインド系イギリス人一家のお宅。三十代前半の夫婦に四歳の女の子と三歳の男の子という家族構成で、語学学校と提携して生徒を受け入れており多いときには三名の留学生が同居していた。一般的にマズいと言われているイギリスの家庭料理で

あったが、幸い毎晩美味しくヘルシーなインド料理を味わうことができた。

一ヶ月の間、平日は午前九時から午後一時まで授業に出席し、その後は学校で出会った色々な国の友達とバブで語り、観光名所を巡ったりミュージカルを鑑賞したりして過ごした。週末になると、郊外のブライトンやケンブリッジまで日帰りツアーに行き、当時大学で専攻していた英文学に縁のあるカンタベリーやシェイクスピアの故郷であるストラトフォード・アポン・エイヴオンまで一人旅をした。電車の乗り継ぎでトラブルに巻き込まれたり、英語の車内アナウンスが聞き取れず全く知らない場所に行ってしまったたりして心細い思いをしたが、そんな時に支えになっていたのがホストファミリィであった。電話でお母さんの



声を聞くと不思議と落ち着いてとても心強かったことを覚えていた。

ヒンズー教徒である彼らも、小さな子供達のために家の中にツリーを飾り親戚を招いて簡単なクリスマスパーティーを催す。肉食主義者が多いため、お肉や動物性脂肪を一切使わず何種類もの料理やデザートを作る。当初は「イギリスに行くのにどうしてインド系の家庭にステイしなければならぬの？」と少し不満に思っていたが、ホームステイが終盤に近づくにつれ、短期間にイギリスとインドの生活習慣や文化を体験することができた私はとてもラッキーだったのだと思えるようになった。

今年、私は社会人生活五年目を迎える。昨年の夏、約一



週間の休暇を利用して二年半振りにロンドンの家族を訪れた。少し大きくなった子供達は私のことをちゃんと覚えていてくれ、お母さんとお父さんは以前と全く変わらず温かく迎えてくれる。そして、別れ際には必ず「いつでも帰っておいで」と言ってくれる。その瞬間、私は心から彼らの存在をありがたく思い、必ずまた会いに来ようと決心するのである。

社会人になると長期休暇がなかなか取れず現地の人々に触れ合うことが難しい。時間がある程度自由に使える学生の方々にはそんなもう一つの家族を今のうちに是非作って欲しい。海外での生活や彼らとの触れ合いを通して、必ず何かを得ることが出来るから。

みち

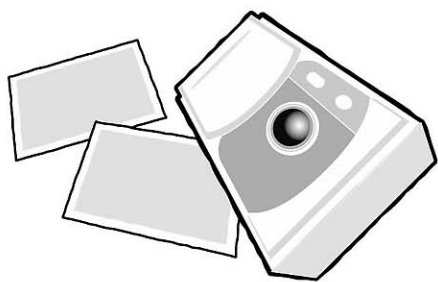
〈平谷地区〉

臺沖 文子

昔は人生五十年と言われてきました。今、私は五十年余り生かされてきました。子どもも成人し、家庭を持ち、孫にも恵まれました。これからは、おまけの道だと思ふのです。のんびりと気楽に生きていきたいと思う今日この頃です。だけど、心の奥底には、チャレンジという言葉を秘めながら…今、百姓、水泳、パソコンに凝っています。

まず百姓、自給自足をめざし、まず稲作りから始めています。なかなか思うように育たないけど、成長していく姿を見ると、とてもいとおしい気持ちになります。また、田んぼにみると、川のせせらぎ、鳥の声、風のささやき…日々の変化のある生活、そして春から育て秋の収穫、日々の変化に一喜一憂しながら楽しんでいきます。

そして水泳。クロールの顔つけバタ足から習って、早や十三年余り。クロール、



背泳、平泳、バタフライと一通り浮かぶことができるようになりましたが、よりラクにより美しく泳げるように、チャレンジです。



それからパソコン。これは最近習い始めました。これもまた奥深い…さつき習ったこともアレ？とすぐ忘れてしまうサマですから、ボチボチのんびりと習っています。日々の記帳、年間の集計を出したり、また今、デジタルカメラに凝っていて、孫を中心に変わり行く生活をパソコンに残しています。こういうのんびりとした生活を送っていますが、一つだけ希望があります。家の周りで「安心して歩ける道」が欲しい…と。